

1 昼間・常住人口、昼夜間人口比率

* 東京都の昼間人口は1,592万人、常住人口は1,352万人

東京都の昼間人口は15,920,405人となり、常住人口は13,515,271人、昼夜間人口比率は117.8となっている。

区部の昼間人口は港区の940,785人が最も多く、次いで世田谷区856,870人、千代田区853,068人の順となっており、常住人口は世田谷区の903,346人が最も多く、次いで練馬区721,722人、大田区717,082人の順となっている。

また、昼夜間人口比率は千代田区が1,460.6と最も高く、次いで中央区431.1、港区386.7の順となっている。

市部の昼間人口は八王子市の576,240人が最も多く、次いで町田市396,333人、府中市245,693人の順となっており、常住人口は八王子市の577,513人が最も多く、次いで町田市432,348人、府中市260,274人の順となっている。

また、市部の昼夜間人口比率は立川市が114.2と最も高く、次いで武蔵野市108.7、多摩市101.0の順となっている。

郡・島部の昼間人口は瑞穂町の36,767人が最も多く、次いで日の出町17,205人、大島町7,998人の順となっており、常住人口は瑞穂町の33,445人が最も多く、次いで日の出町17,446人、大島町7,884人の順となっている。

また、郡・島部の昼夜間人口比率は御蔵島村が128.7と最も高く、次いで青ヶ島村126.4、利島村123.4の順となっている。(表1～4、図1～2、統計表第1表)

表1 地域別、昼間・常住人口、昼夜間人口比率 (人)

地域	昼間人口	常住人口	昼夜間人口比率
東京都	15,920,405	13,515,271	117.8
区部	12,033,592	9,272,740	129.8
市部	3,798,280	4,157,706	91.4
郡・島部	88,533	84,825	104.4

表2 昼間・常住人口、昼夜間人口比率の多い区 (人)

順位	昼間人口	常住人口	昼夜間人口比率
1	港区 940,785	世田谷区 903,346	千代田区 1,460.6
2	世田谷区 856,870	練馬区 721,722	中央区 431.1
3	千代田区 853,068	大田区 717,082	港区 386.7
4	新宿区 775,549	江戸川区 681,298	渋谷区 240.1
5	大田区 693,865	足立区 670,122	新宿区 232.5

表3 昼間・常住人口、昼夜間人口比率の多い市 (人)

順位	昼間人口	常住人口	昼夜間人口比率
1	八王子市 576,240	八王子市 577,513	立川市 114.2
2	町田市 396,333	町田市 432,348	武蔵野市 108.7
3	府中市 245,693	府中市 260,274	多摩市 101.0
4	立川市 201,294	調布市 229,061	八王子市 99.8
5	調布市 197,864	西東京市 200,012	国立市 97.8

表4 昼間・常住人口、昼夜間人口比率の多い町村(郡・島部) (人)

順位	昼間人口	常住人口	昼夜間人口比率
1	瑞穂町 36,767	瑞穂町 33,445	御蔵島村 128.7
2	日の出町 17,205	日の出町 17,446	青ヶ島村 126.4
3	大島町 7,998	大島町 7,884	利島村 123.4
4	八丈町 7,731	八丈町 7,613	瑞穂町 109.9
5	奥多摩町 5,213	奥多摩町 5,234	小笠原村 103.9

図1 昼間人口

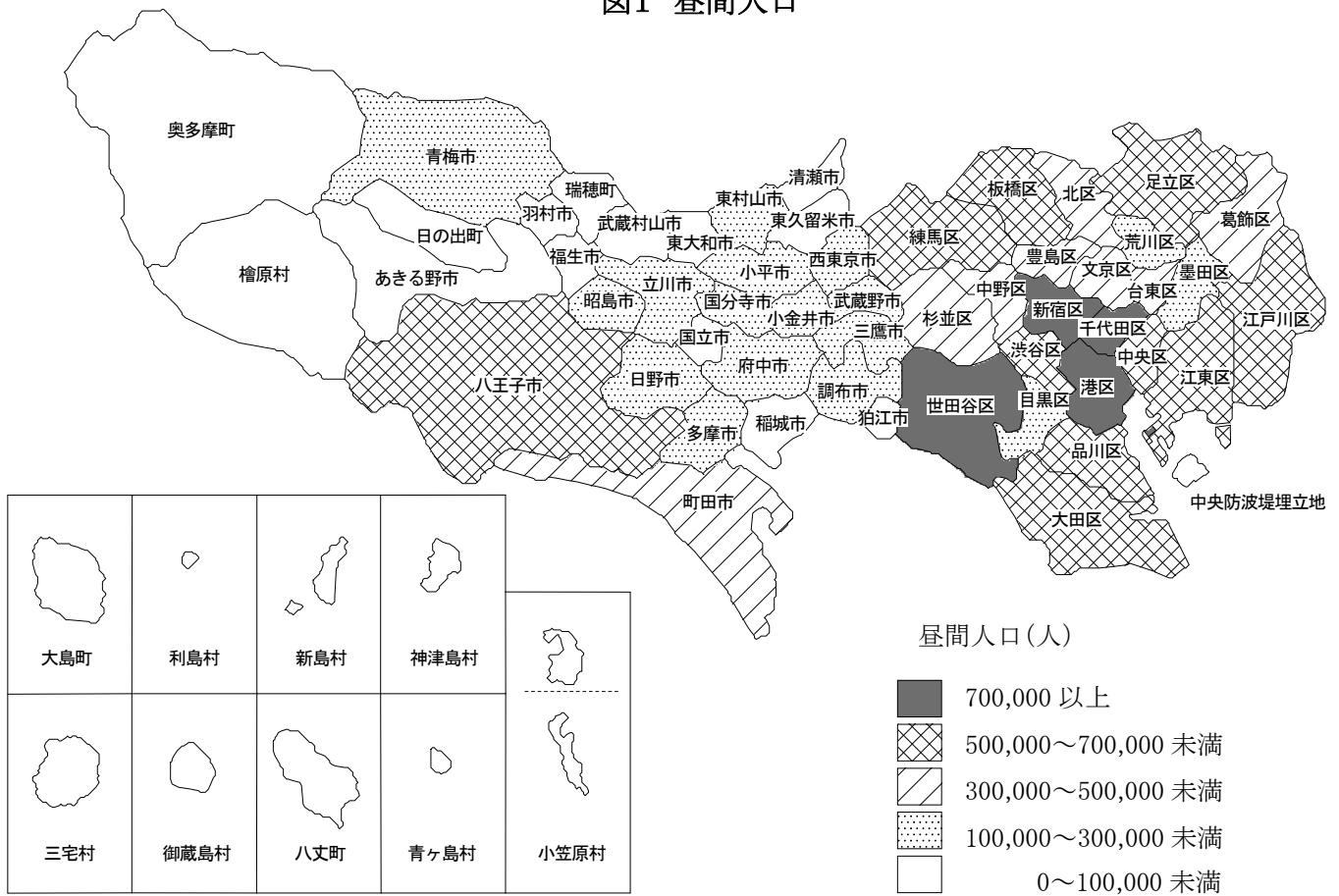
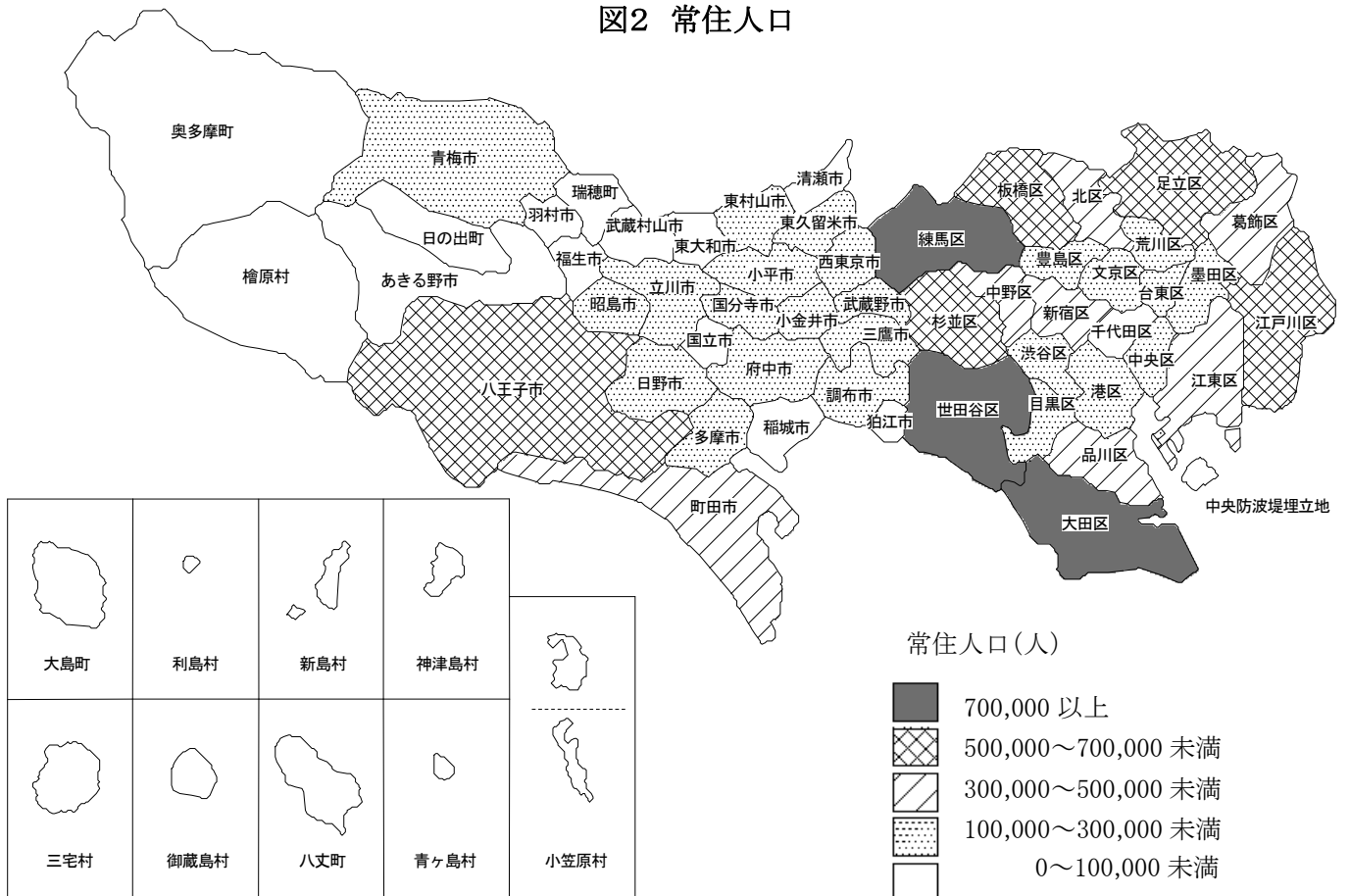


図2 常住人口



2 就業者（15歳以上）及び通学者

* 就業者（昼間・常住）及び通学者（昼間・常住）の全てで減少

(1) 就業者

昼間就業者は8,006,342人で、平成22年（以下「前回調査」という。）に比べ167,783人（増減率△2.1%）減少している。また、常住就業者は5,858,959人で、前回調査に比べ153,577人（同△2.6%）減少している。

区部の昼間就業者は港区の761,174人が最も多く、次いで千代田区755,559人、中央区534,656人の順となっており、常住就業者は世田谷区の350,132人が最も多く、次いで大田区340,829人、江戸川区303,120人の順となっている。

市部の昼間就業者は八王子市の217,711人が最も多く、次いで町田市132,959人、府中市113,440人となっており、常住就業者は八王子市の247,855人が最も多く、次いで町田市177,299人、府中市123,572人の順となっている。

郡・島部の昼間就業者は瑞穂町の20,119人が最も多く、次いで日の出町7,622人、八丈町4,175人となっており、常住就業者は瑞穂町の15,799人が最も多く、次いで日の出町7,154人、八丈町4,064人の順となっている。

（表5～11、図3～8、統計表第2、3の1表）

表5 就業者

（人、%、ポイント）

項目	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成22年～平成27年 増減数(増減率)
昼間就業者	8,769,087	8,507,195	8,205,300	8,174,125	8,006,342	△ 167,783 (△ 2.1)
常住就業者	6,309,698	6,158,377	5,915,533	6,012,536	5,858,959	△ 153,577 (△ 2.6)
昼夜間就業者比率	139.0	138.1	138.7	136.0	136.7	0.7 (0.5)

表6 昼間就業者が多い区

（人）

順位	区名	平成27年	区名	平成22年
1	港区	761,174	港区	749,814
2	千代田区	755,559	千代田区	725,446
3	中央区	534,656	中央区	550,870
4	新宿区	519,077	新宿区	504,305
5	渋谷区	373,203	渋谷区	372,568

表7 常住就業者が多い区

（人）

順位	区名	平成27年	区名	平成22年
1	世田谷区	350,132	世田谷区	394,885
2	大田区	340,829	大田区	334,214
3	江戸川区	303,120	練馬区	321,148
4	練馬区	284,146	江戸川区	305,225
5	足立区	272,140	足立区	301,583

図3 昼間就業者が多い区

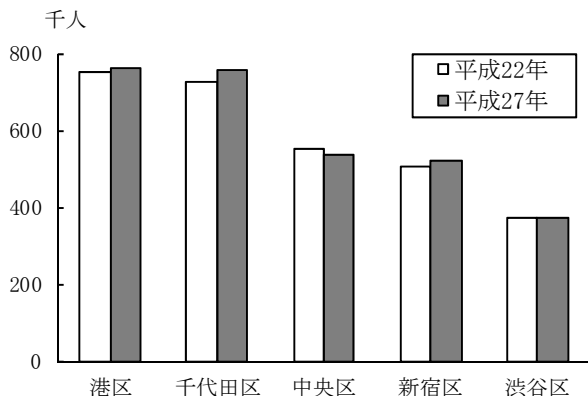


図4 常住就業者が多い区

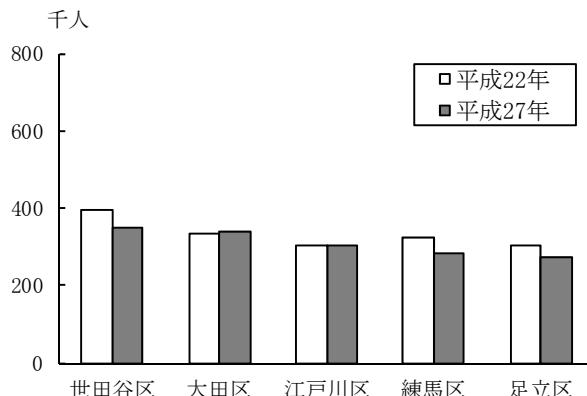


表8 昼間就業者が多い市 (人)

順位	市名	平成27年	市名	平成22年
1	八王子市	217,711	八王子市	220,436
2	町田市	132,959	町田市	136,380
3	府中市	113,440	府中市	115,949
4	立川市	98,295	立川市	103,041
5	調布市	75,753	調布市	75,888

図5 昼間就業者が多い市
千人

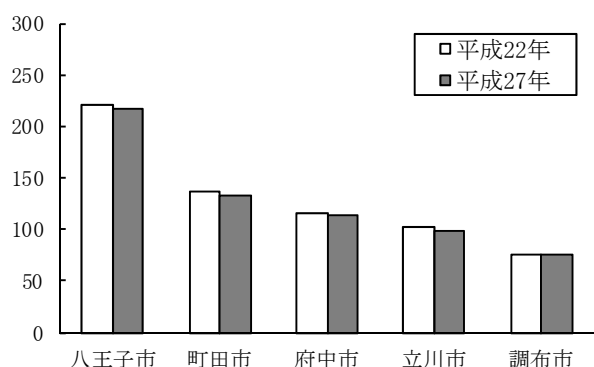


表9 常住就業者が多い市 (人)

順位	市名	平成27年	市名	平成22年
1	八王子市	247,855	八王子市	253,920
2	町田市	177,299	町田市	184,278
3	府中市	123,572	府中市	120,881
4	調布市	106,263	調布市	103,489
5	三鷹市	94,138	西東京市	88,770

図6 常住就業者が多い市
千人

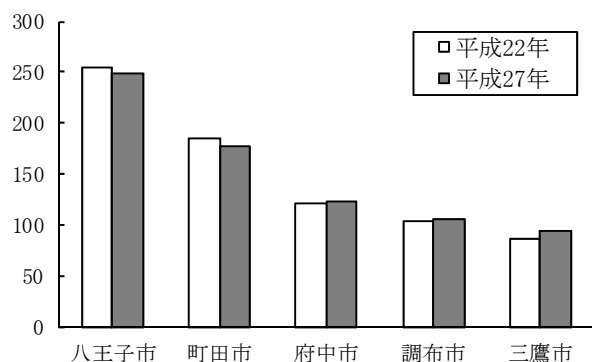


表10 昼間就業者が多い町村(郡・島部) (人)

順位	町村名	平成27年	町村名	平成22年
1	瑞穂町	20,119	瑞穂町	19,995
2	日の出町	7,622	日の出町	7,382
3	八丈町	4,175	八丈町	4,258
4	大島町	4,082	大島町	4,169
5	奥多摩町	2,331	奥多摩町	2,462

図7 昼間就業者が多い町村(郡・島部)
千人

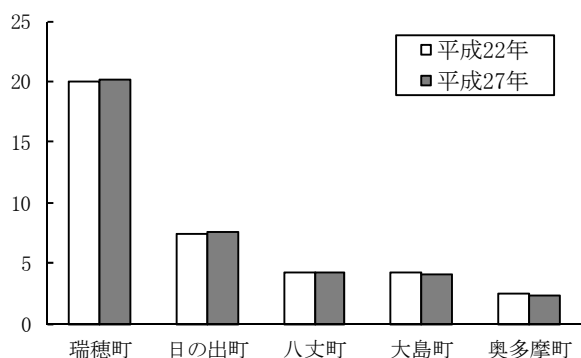
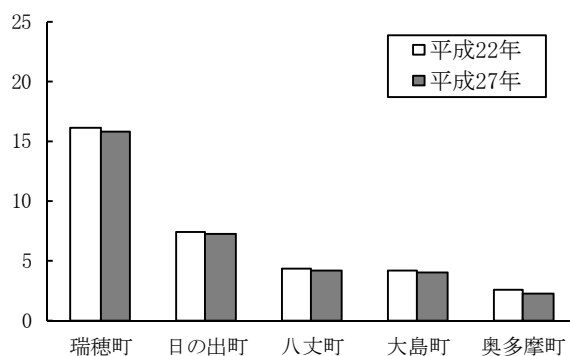


表11 常住就業者が多い町村(郡・島部) (人)

順位	町村名	平成27年	町村名	平成22年
1	瑞穂町	15,799	瑞穂町	16,107
2	日の出町	7,154	日の出町	7,369
3	八丈町	4,064	八丈町	4,231
4	大島町	3,989	大島町	4,144
5	奥多摩町	2,191	奥多摩町	2,557

図8 常住就業者が多い町村(郡・島部)
千人



(2) 通学者

昼間通学者は1,679,335人で、前回調査に比べ95,912人（増減率△5.4%）減少している。また、常住通学者は1,421,603人で、98,508人（同△6.5%）減少している。

区部の昼間通学者は世田谷区の120,823人が最も多く、次いで新宿区83,025人、千代田区69,443人の順となっており、常住通学者は世田谷区の93,647人が最も多く、次いで江戸川区82,007人、練馬区79,728人の順となっている。

市部の昼間通学者は八王子市の107,054人が最も多く、次いで町田市65,380人、調布市27,840人の順となっており、常住通学者は八王子市の78,183人が最も多く、次いで町田市57,055人、府中市32,241人の順となっている。

郡・島部の昼間通学者は瑞穂町の3,082人が最も多く、次いで日の出町1,234人、大島町893人の順となっており、常住通学者は瑞穂町の4,080人が最も多く、次いで日の出町1,943人、大島町872人の順となっている。

（表12～18、図9～14、統計表第2、3の2表）

表12 通学者

（人、%、ポイント）

項目	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成22年～平成27年 増減数(増減率)
昼間通学者	2,184,292	1,912,564	1,729,370	1,775,247	1,679,335	△95,912 (△5.4)
常住通学者	1,806,792	1,611,736	1,457,343	1,520,111	1,421,603	△98,508 (△6.5)
昼夜間通学者比率	120.9	118.7	118.7	116.8	118.1	1.3 (1.1)

表13 昼間通学者が多い区

（人）

順位	区名	平成27年	区名	平成22年
1	世田谷区	120,823	世田谷区	129,256
2	新宿区	83,025	新宿区	87,892
3	千代田区	69,443	千代田区	76,589
4	文京区	67,476	江戸川区	72,264
5	江戸川区	66,124	練馬区	71,049

表14 常住通学者が多い区

（人）

順位	区名	平成27年	区名	平成22年
1	世田谷区	93,647	世田谷区	102,582
2	江戸川区	82,007	練馬区	89,678
3	練馬区	79,728	江戸川区	86,945
4	大田区	69,322	足立区	78,136
5	足立区	67,662	大田区	71,630

図9 昼間通学者が多い区
千人

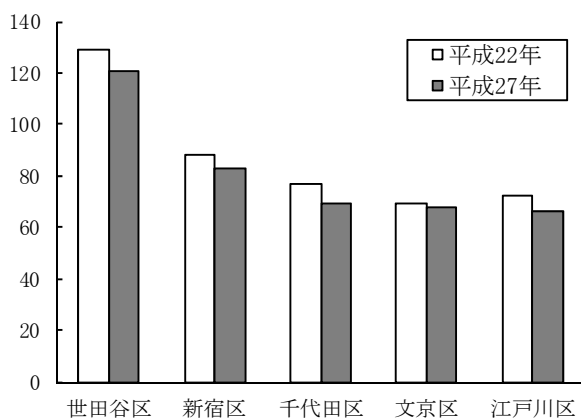


図10 常住通学者が多い区
千人

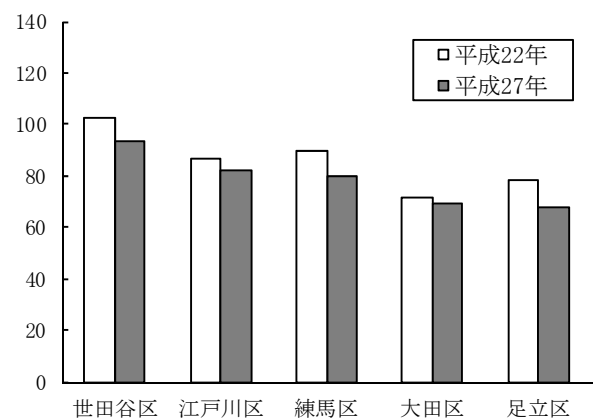


表15 昼間通学者が多い市 (人)

順位	市名	平成27年	市名	平成22年
1	八王子市	107,054	八王子市	119,911
2	町田市	65,380	町田市	68,758
3	調布市	27,840	府中市	29,153
4	府中市	27,793	小平市	28,837
5	小平市	25,720	調布市	28,254

図11 昼間通学者が多い市
千人

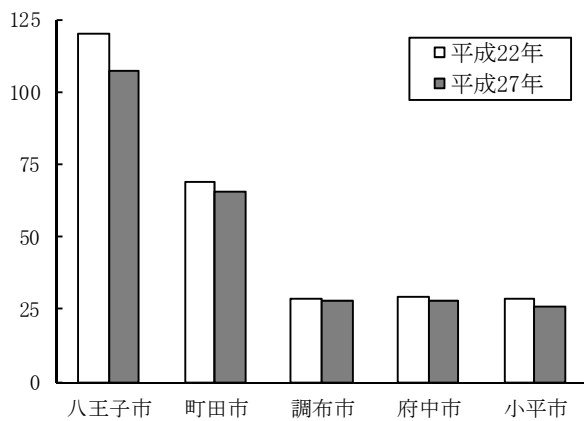


表16 常住通学者が多い市 (人)

順位	市名	平成27年	市名	平成22年
1	八王子市	78,183	八王子市	88,439
2	町田市	57,055	町田市	59,272
3	府中市	32,241	府中市	33,348
4	調布市	28,527	小平市	28,456
5	小平市	25,865	調布市	28,259

図12 常住通学者が多い市
千人

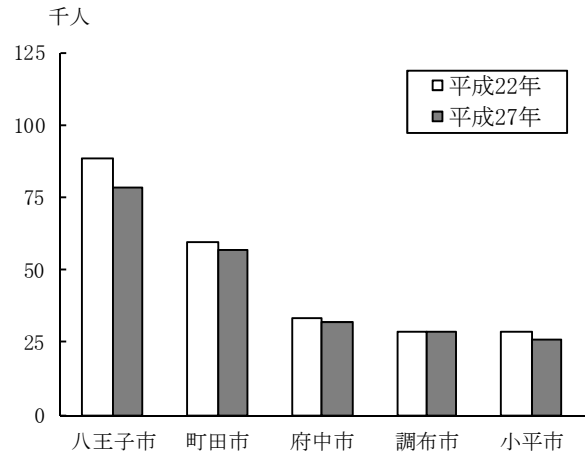


表17 昼間通学者が多い町村(郡・島部) (人)

順位	町村名	平成27年	町村名	平成22年
1	瑞穂町	3,082	瑞穂町	3,488
2	日の出町	1,234	日の出町	1,161
3	大島町	893	大島町	942
4	八丈町	690	八丈町	776
5	小笠原村	261	奥多摩町	293

図13 昼間通学者が多い町村(郡・島部)
千人

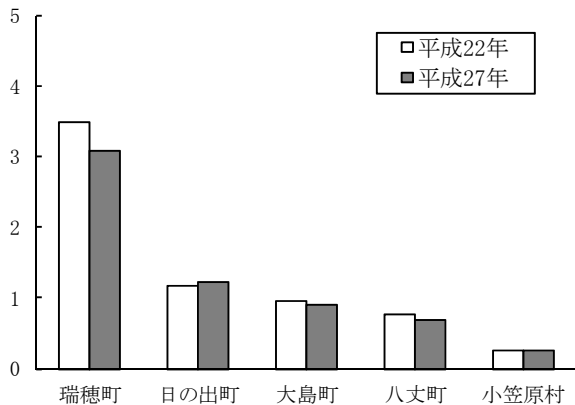
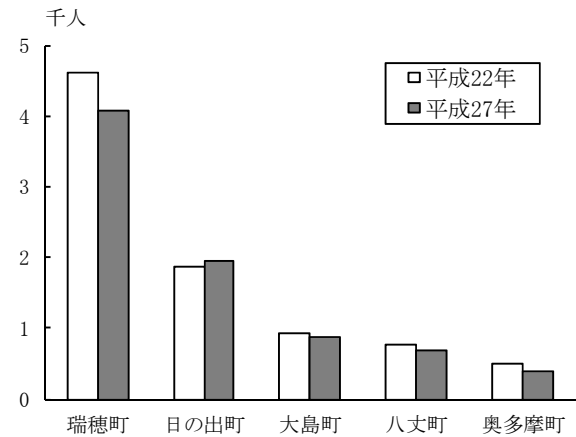


表18 常住通学者が多い町村(郡・島部) (人)

順位	町村名	平成27年	町村名	平成22年
1	瑞穂町	4,080	瑞穂町	4,601
2	日の出町	1,943	日の出町	1,865
3	大島町	872	大島町	938
4	八丈町	683	八丈町	776
5	奥多摩町	387	奥多摩町	496

図14 常住通学者が多い町村(郡・島部)
千人



3 東京都の流入・流出口

* 東京都への流入人口は 291 万人、東京都からの流出人口は 50 万人

(1) 東京都への流入

東京都への流入人口は 2,906,056 人となっている。

道府県別で見ると、神奈川県からの 1,068,505 人（構成比 36.8%）が最も多く、次いで埼玉県 936,100 人（同 32.2%）、千葉県 716,881 人（同 24.7%）の順となっており、この 3 県で東京都への流入人口の 93.6%を占めている。

（表 19、図 15～16、統計表第 5、7 の 1 表）

表19 東京都への流入人口 (人)

常住地	流入人口
総数	2,906,056
茨城県	67,282
栃木県	17,301
群馬県	13,614
埼玉県	936,100
千葉県	716,881
神奈川県	1,068,505
その他の道府県	86,373

図15 東京都への流入人口

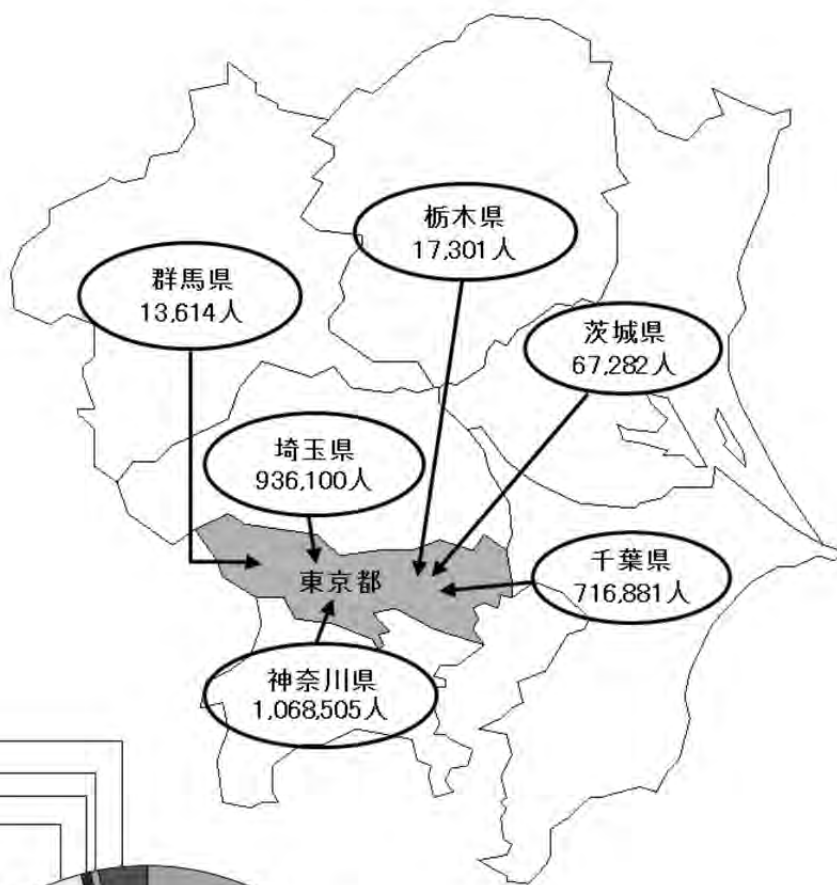
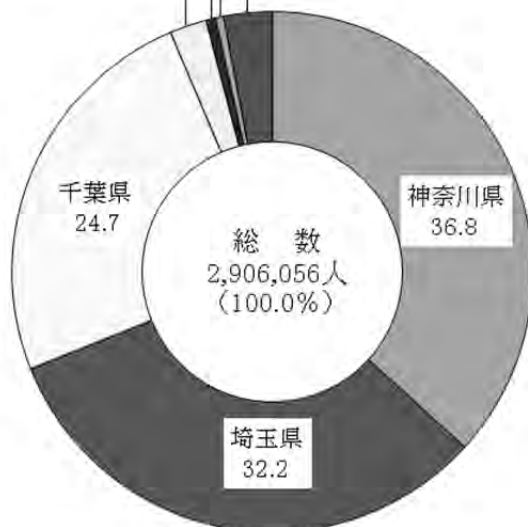


図16 道府県別流入人口割合

その他の道府県 3.0
 群馬県 0.5
 栃木県 0.6
 茨城県 2.3



(2) 東京都からの流出

東京都からの流出人口は 500,941 人となっている。

道府県別で見ると、神奈川県への 238,314 人（構成比 47.6%）が最も多く、次いで埼玉県 140,961 人（同 28.1%）、千葉県 82,706 人（同 16.5%）の順となっており、この 3 県で東京都からの流出人口の 92.2%を占めている。

（表 20、図 17～18、統計表第 5、7 の 1 表）

表20 東京都からの流出人口 (人)

従業地・通学地	流出人口
総数	500,941
茨城県	7,619
栃木県	2,770
群馬県	2,251
埼玉県	140,961
千葉県	82,706
神奈川県	238,314
その他の道府県	26,320

図17 東京都からの流出人口

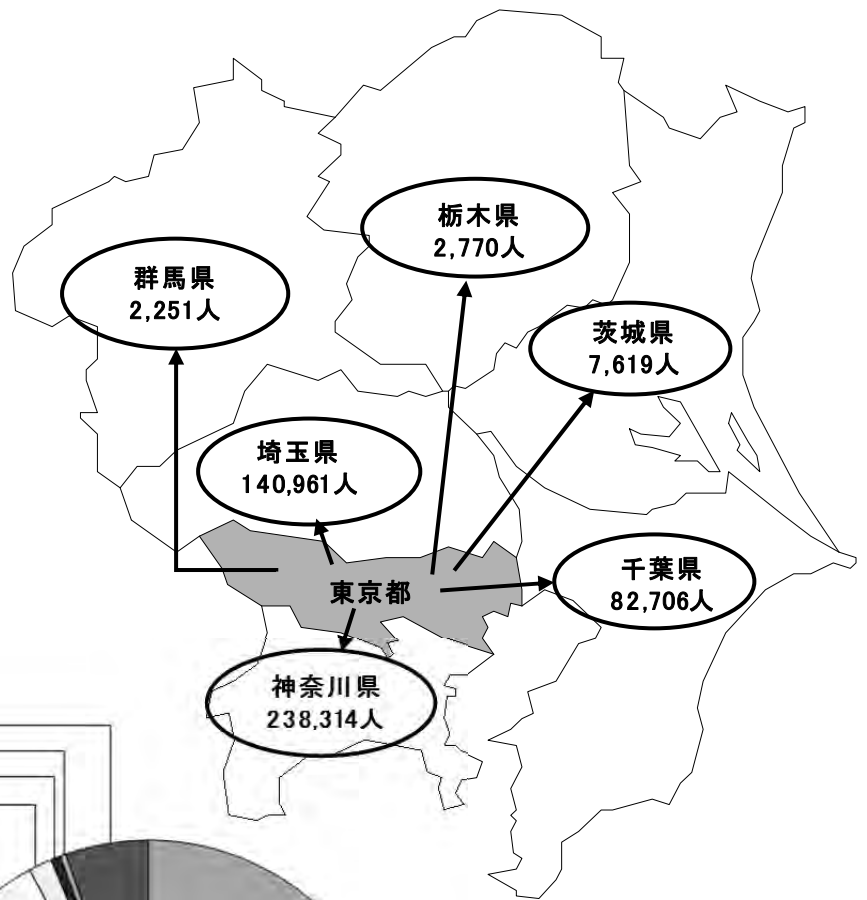
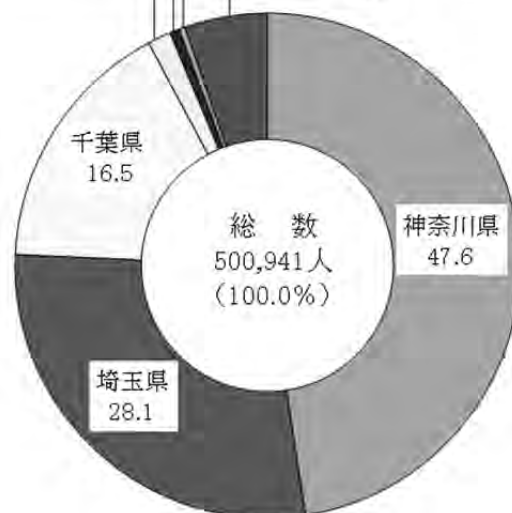


図18 道府県別流出人口割合

その他の道府県 5.3
 群馬県 0.4
 栃木県 0.6
 茨城県 1.5



4 区部の流入・流出口

* 区部への流入人口は318万人、区部からの流出口は42万人

(1) 区部への流入

区部への流入人口は3,180,829人となっている。

道府県別で見ると、神奈川県からの919,762人が最も多く、次いで埼玉県844,151人、千葉県699,698人の順となっている。

都内市町村から区部への流入人口は555,890人となり、市町村別で見ると、調布市の51,013人が最も多く、次いで西東京市47,222人、町田市43,900人の順となっている。

(表21~22、図19~20、統計表第6表)

表21 区部への流入人口 (人)

常住地	流入人口
総数	3,180,829
茨城県	64,312
栃木県	15,951
群馬県	11,853
埼玉県	844,151
千葉県	699,698
神奈川県	919,762
その他の道府県	69,212
都内市町村	555,890

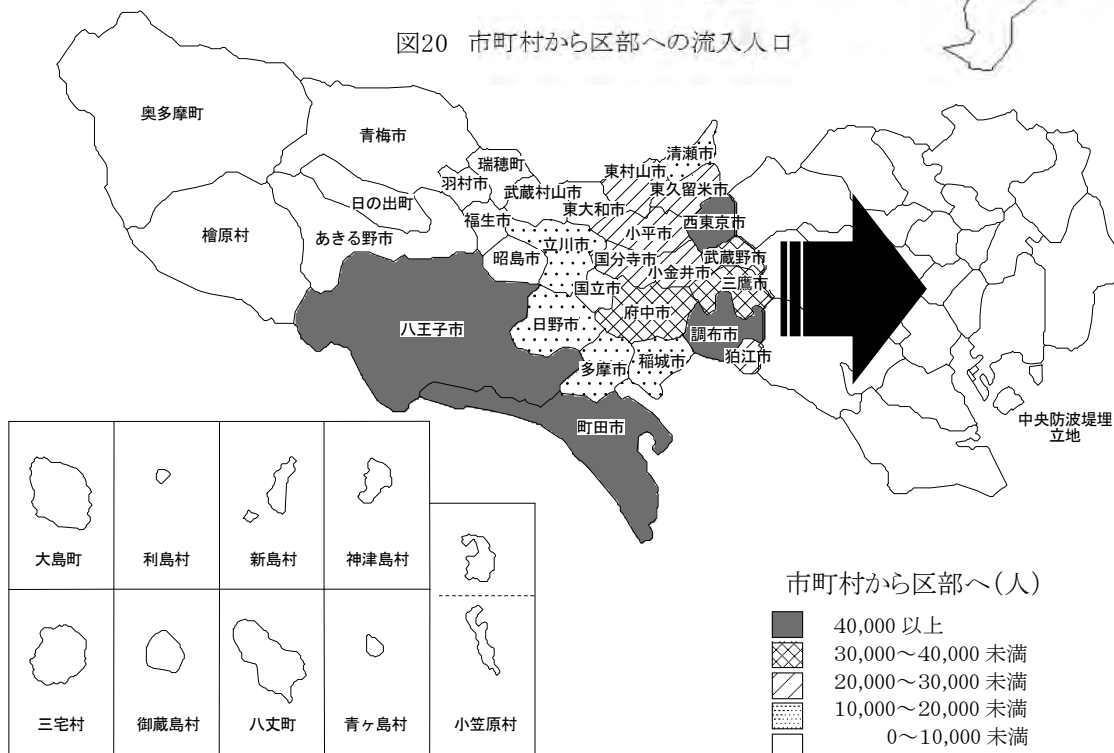
図19 区部への流入人口



表22 市町村から区部へ (人)

順位	流入人口
1	調布市 51,013
2	西東京市 47,222
3	町田市 43,900
4	八王子市 42,812
5	三鷹市 38,800

図20 市町村から区部への流入人口



(2) 区部からの流出

区部からの流出人口は419,999人となっている。

道府県別で見ると、神奈川県123,197人が最も多く、次いで埼玉県91,966人、千葉県75,813人の順となっている。

区部から都内市町村への流出人口は103,591人となり、市町村別で見ると、武蔵野市の16,454人が最も多く、次いで八王子市11,751人、調布市9,802人の順となっている。

(表23～24、図21～22、統計表第6表)

表23 区部からの流出人口 (人)

従業地・通学地	流入人口
総数	419,999
茨城県	6,239
栃木県	2,071
群馬県	1,500
埼玉県	91,966
千葉県	75,813
神奈川県	123,197
その他の道府県	15,622
都内市町村	103,591

図21 区部からの流出人口

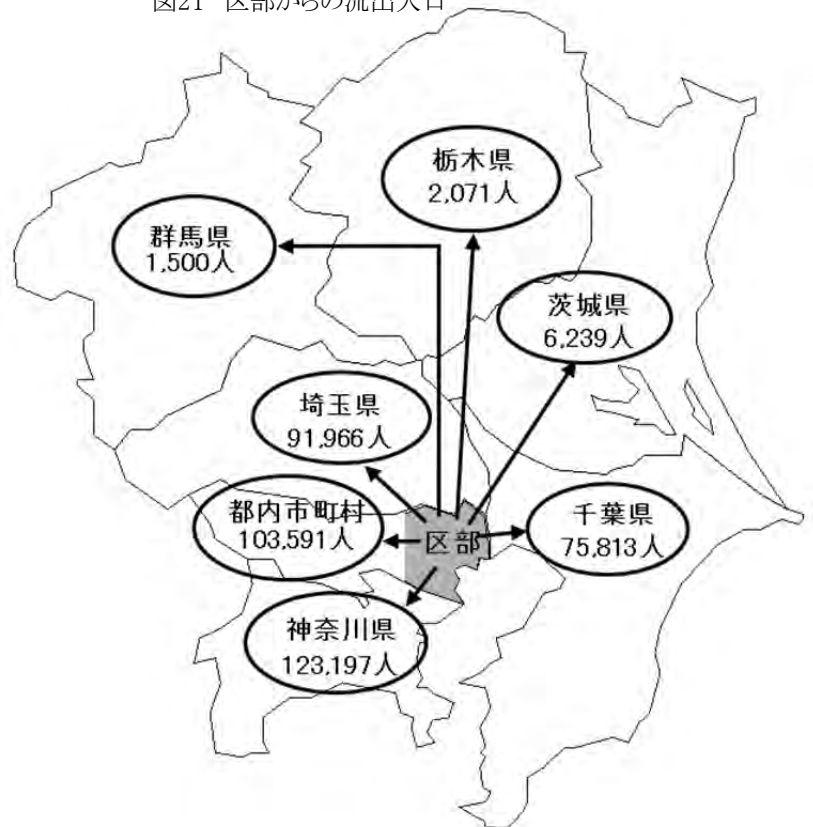
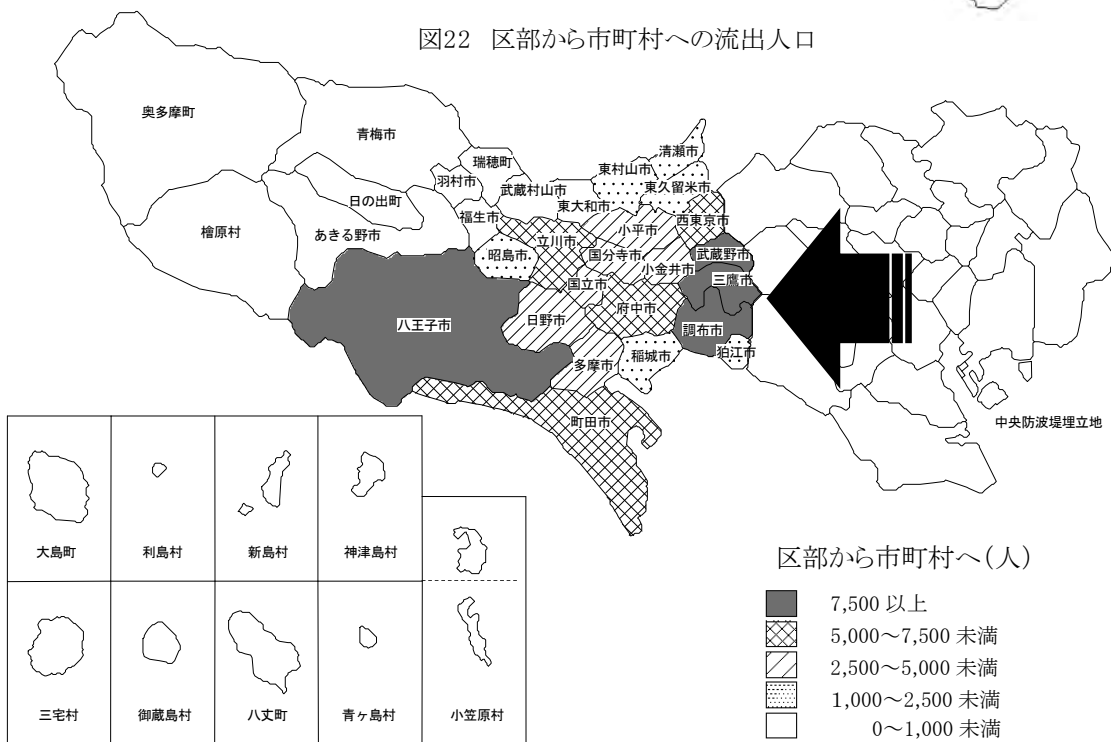


表24 区部から市町村へ (人)

順位	市町村	流出人口
1	武蔵野市	16,454
2	八王子市	11,751
3	調布市	9,802
4	三鷹市	8,136
5	府中市	7,009

図22 区部から市町村への流出人口



5 通勤者（15歳以上）・通学者の移動状況

* 東京都の通勤・通学者による移動は970万人

東京都の通勤・通学による移動は9,699,255人となり、その内訳は通勤者7,950,641人、通学者1,748,614人となっている。

東京都に常住している通勤・通学者は6,793,199人となっている。

都内で移動している通勤・通学者は、自区市町村2,154,027人、他の区市町村3,270,221人である。他道府県への通勤・通学者は、500,941人となっている。また、他道府県から通勤・通学している者は2,906,056人となっている。

(表25、統計表第7の1～4表)

表25 東京都の移動状況

(人)

項目	移動人口 1)	東京都(各地域)に常住				他道府県に常住	
		総数 1)	都内で通勤・通学		他道府県へ 通勤・通学	他道府県から 通勤・通学	
			自区市町村	他の区市町村			
東京都	9,699,255	6,793,199	2,154,027	3,270,221	500,941	2,906,056	
通勤者	7,950,641	5,371,596	1,448,607	2,870,998	431,662	2,579,045	
通学者	1,748,614	1,421,603	705,420	399,223	69,279	327,011	
うち15歳以上	919,640	611,617	150,208	346,609	61,969	308,023	
区	7,147,186	4,522,247	1,348,670	2,178,550	316,408	2,624,939	
通勤者	6,000,744	3,630,228	941,269	1,931,525	270,251	2,370,516	
通学者	1,146,442	892,019	407,401	247,025	46,157	254,423	
うち15歳以上	610,256	371,434	83,965	208,323	40,791	238,822	
市	2,503,662	2,226,190	778,950	1,077,190	182,658	277,472	
通勤者	1,910,572	1,705,636	487,045	927,037	159,800	204,936	
通学者	593,090	520,554	291,905	150,153	22,858	72,536	
うち15歳以上	305,908	236,749	65,110	136,350	20,929	69,159	
郡・島	48,407	44,762	26,407	14,481	1,875	3,645	
通勤者	39,325	35,732	20,293	12,436	1,611	3,593	
通学者	9,082	9,030	6,114	2,045	264	52	
うち15歳以上	3,476	3,434	1,133	1,936	249	42	

※本表の数値には自宅就業者を含まない。

1) [従業・通学市区町村「不詳・外国」]及び[従業地・通学地「不詳」]を含む。

6 産業別就業者（15歳以上）

* 昼間就業者の産業別では、第3次産業就業者が594万人で最も多い

昼間就業者 8,006,342 人のうち第1次産業就業者は 23,918 人、第2次産業就業者は 1,283,753 人、第3次産業就業者は 5,936,937 人となっている。

昼間就業者を産業別に見ると、卸売業、小売業の 1,166,753 人が最も多く、次いで製造業 842,642 人、情報通信業 786,703 人、医療、福祉 622,567 人、サービス業（他に分類されないもの）575,381 人の順となっている。

常住就業者を産業別に見ると、卸売業、小売業の 817,975 人が最も多く、次いで製造業 589,513 人、医療、福祉 541,051 人、情報通信業 444,660 人、サービス業（他に分類されないもの）400,993 人の順となっている。

昼夜間就業者比率を見ると、情報通信業の 176.9 が最も高く、次いで鉱業、採石業、砂利採取業 166.7、金融業、保険業 163.4 の順となっている。

（表 26、統計表第 8 表）

表26 産業別昼間・常住就業者

(人)

産業	昼間就業者	流入通勤者	流出通勤者	常住就業者	昼夜間 就業者比率
総数	8,006,342	2,579,045	431,662	5,858,959	136.7
第1次産業	23,918	2,148	920	22,690	105.4
農業、林業	23,062	1,928	894	22,028	104.7
うち農業	22,475	1,777	828	21,526	104.4
漁業	856	220	26	662	129.3
第2次産業	1,283,753	501,503	116,130	898,380	142.9
鉱業、採石業、砂利採取業	2,526	1,087	76	1,515	166.7
建設業	438,585	160,816	29,583	307,352	142.7
製造業	842,642	339,600	86,471	589,513	142.9
第3次産業	5,936,937	2,013,683	302,856	4,226,110	140.5
電気・ガス・熱供給・水道業	30,179	13,803	2,494	18,870	159.9
情報通信業	786,703	368,969	26,926	444,660	176.9
運輸業、郵便業	369,172	141,215	30,163	258,120	143.0
卸売業、小売業	1,166,753	408,806	60,028	817,975	142.6
金融業、保険業	357,894	153,552	14,712	219,054	163.4
不動産業、物品賃貸業	282,805	82,208	10,714	211,311	133.8
学術研究、専門・技術サービス業	465,552	160,073	21,081	326,560	142.6
宿泊業、飲食サービス業	427,351	110,914	15,162	331,599	128.9
生活関連サービス業、娯楽業	254,643	71,527	14,861	197,977	128.6
教育、学習支援業	332,628	95,502	30,049	267,175	124.5
医療、福祉	622,567	121,842	40,326	541,051	115.1
複合サービス事業	25,978	5,916	1,059	21,121	123.0
サービス業（他に分類されないもの）	575,381	197,437	23,049	400,993	143.5
公務（他に分類されるものを除く）	239,331	81,919	12,232	169,644	141.1
分類不能の産業	761,734	61,711	11,756	711,779	107.0

7 男女、年齢別昼間・常住人口、就業者（15歳以上）

* 昼夜間人口比率を男女・年齢別に見ると、男性は55～59歳の140.8、女性は20～24歳の137.9がそれぞれ最も高い

(1) 男女・年齢別構成

東京都の昼間人口を男女別に見ると、男性8,276,840人、女性7,643,565人となり、常住人口は男性6,666,690人、女性6,848,581人となっている。昼夜間人口比率は男性124.2、女性111.6となっている。

男女、年齢別昼夜間人口比率は、男性は55～59歳の140.8が最も高く、次いで50～54歳140.4、45～49歳138.3の順となっており、女性は20～24歳の137.9が最も高く、次いで15～19歳126.8、25～29歳123.8の順となっている。

昼間就業者を男女別に見ると、男性4,774,631人、女性3,231,711人となり、常住就業者については男性3,291,599人、女性2,567,360人となっている。

男女、年齢別昼夜間就業者比率は、男性は50～54歳の153.4が最も高く、次いで55～59歳153.0、45～49歳152.1、40～44歳152.1の順となっており、女性は20～24歳の145.8が最も高く、次いで15～19歳141.4、25～29歳139.3の順となっている。

(表27～28、図23～24、統計表第9表、東京都区市町村町丁別報告第1表)

表27 年齢、男女別昼間・常住人口、昼夜間人口比率 (人)

	男			女		
	昼間人口	常住人口	昼夜間人口比率	昼間人口	常住人口	昼夜間人口比率
総数※	8,276,840	6,666,690	124.2	7,643,565	6,848,581	111.6
15歳未満	780,874	776,017	100.6	748,953	742,113	100.9
15～19歳	348,077	289,130	120.4	351,925	277,599	126.8
20～24歳	516,775	383,164	134.9	511,097	370,534	137.9
25～29歳	541,049	436,135	124.1	529,251	427,543	123.8
30～34歳	634,129	495,240	128.0	568,984	474,637	119.9
35～39歳	710,072	530,043	134.0	596,365	508,347	117.3
40～44歳	803,604	584,654	137.4	659,266	569,560	115.8
45～49歳	742,134	536,680	138.3	582,975	511,490	114.0
50～54歳	645,974	459,994	140.4	484,020	431,338	112.2
55～59歳	519,825	369,325	140.8	386,970	353,430	109.5
60～64歳	487,568	364,160	133.9	382,843	361,152	106.0
65～69歳	484,657	414,853	116.8	452,584	439,722	102.9
70～74歳	352,378	327,345	107.6	391,190	385,997	101.3
75～79歳	261,358	254,158	102.8	331,274	329,813	100.4
80歳以上	307,467	304,893	100.8	549,297	548,735	100.1

※ 総数には、年齢不詳を含む。

表28 年齢、男女別昼間・常住就業者、昼夜間就業者比率 (人)

	男			女		
	昼間就業者	常住就業者	昼夜間就業者比率	昼間就業者	常住就業者	昼夜間就業者比率
総数	4,774,631	3,291,599	145.1	3,231,711	2,567,360	125.9
15～19歳	43,237	32,521	133.0	48,090	34,012	141.4
20～24歳	232,682	166,094	140.1	258,463	177,267	145.8
25～29歳	368,078	267,855	137.4	351,629	252,466	139.3
30～34歳	461,109	323,283	142.6	355,240	261,582	135.8
35～39歳	545,113	365,526	149.1	361,498	273,781	132.0
40～44歳	638,349	419,631	152.1	412,117	322,636	127.7
45～49歳	599,151	393,832	152.1	375,451	304,135	123.4
50～54歳	534,093	348,206	153.4	315,269	262,661	120.0
55～59歳	434,233	283,808	153.0	239,040	205,565	116.3
60～64歳	373,709	250,436	149.2	193,517	171,874	112.6
65～69歳	286,755	217,046	132.1	159,635	146,814	108.7
70～74歳	145,868	120,863	120.7	88,240	83,059	106.2
75～79歳	69,106	61,914	111.6	43,586	42,129	103.5
80歳以上	43,148	40,584	106.3	29,936	29,379	101.9

図23 年齢、男女別昼間・常住人口

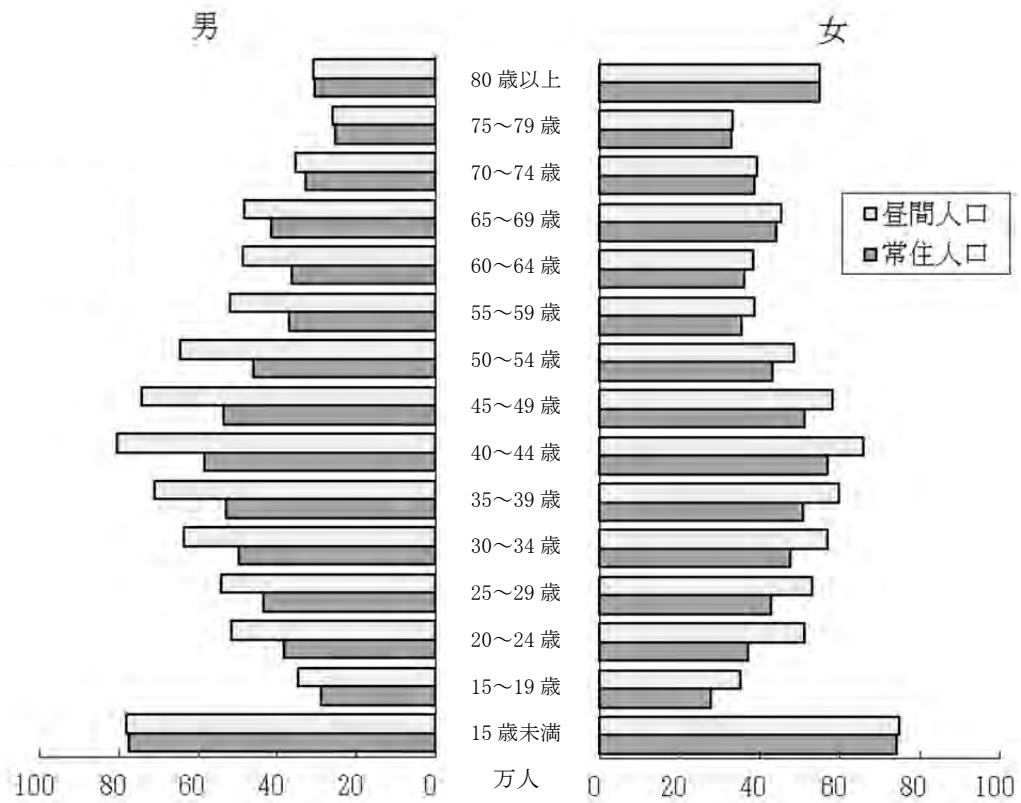
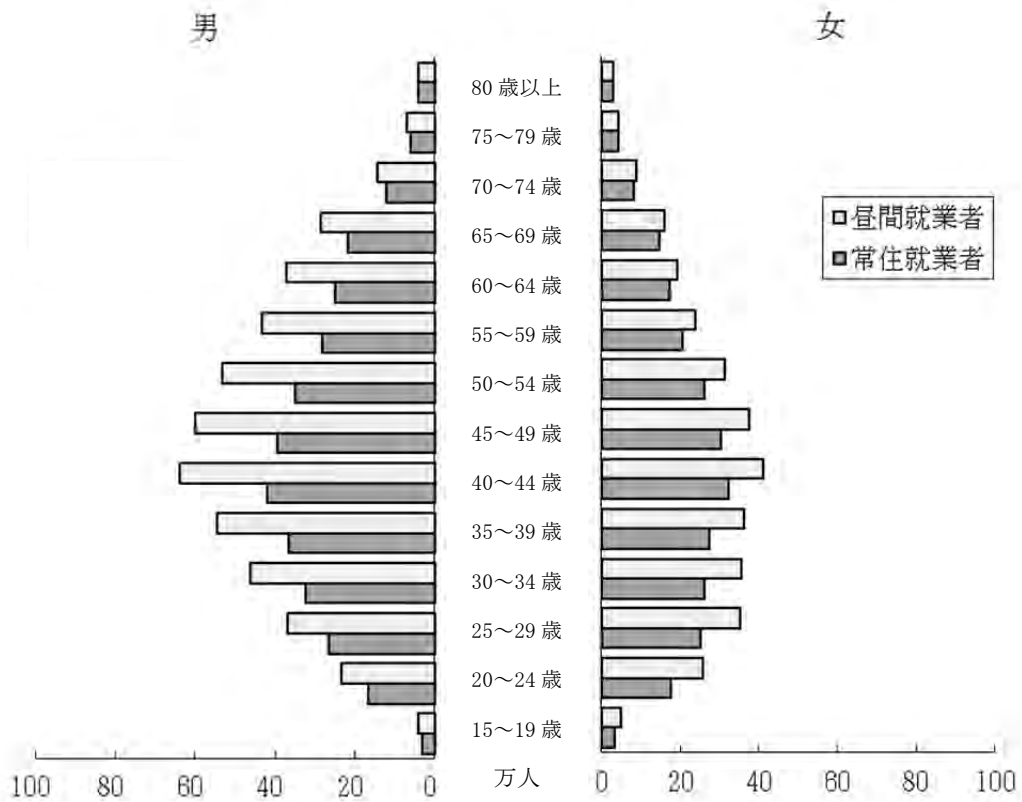


図24 年齢、男女別昼間・常住就業者



8 人口重心

* 常住（夜間）人口重心は杉並区、昼間人口重心は中野区となった

(1) 常住（夜間）人口重心

平成 27 年 10 月 1 日現在の常住人口重心は北緯 35° 41′ 14″、東経 139° 38′ 23″ となった。地図上では、杉並区成田東一丁目の松ノ木中学校付近にある。（図 25）

図 25 東京都の常住人口重心



「統計トピックス No.102 我が国の人口重心 —平成 27 年国勢調査結果から—」
(総務省統計局) <http://www.stat.go.jp/data/kokusei/topics/topi102.htm>
※ 緯度と経度は、小数点以下 1 位を四捨五入した。

(2) 昼間人口重心

平成 27 年 10 月 1 日現在の昼間人口重心は北緯 35° 40′ 57″、東経 139° 39′ 49″ となった。地図上では、中野区南台 3 丁目の南台三丁目公園付近にある。（図 26）

図 26 東京都の昼間人口重心



※ 昼間人口重心についても、区市町村の人口が全てその区市町村の役所の位置にあると仮定して計算を行った。

人口重心とは、対象領域内（東京都内）の一人ひとりが同じ重さを持ち、対象領域内の部分地域（各区市町村）の人口が、部分地域の区市町村庁舎にいと仮定した場合の対象領域内の平衡点をいう。各区市町村庁舎所在地の緯度及び経度は「世界測地系」を用いている。具体的な計算方法は、次のとおりである。

$$x = \frac{\sum w_i x_i \cos(y_i)}{\sum w_i \cos(y_i)} \quad y = \frac{\sum w_i y_i}{\sum w_i}$$

x, y : 人口重心の経度, 緯度
x_i, y_i : 各区市町村庁舎所在地の緯度及び経度
w_i : 区市町村ごとの人口